

◎若き君へ 新時代の主役に語る 第4回 〈上〉

どんな仕事であれ、どんな立場であれ、題目を唱える自分自身が智慧を出し、力を尽くして、世のため、人のため、誠実に価値を創造していく。それは、全て『心の財』を積む仏道修行になります。仕事と信心は、別々ではない。むしろ、仕事を最大に充実させていく原動力が、信心であり、学会活動なのです

(聖教新聞 2012年5月22日付)

◎新・人間革命 法旗の章

座談会が開かれると、誰もが、先を争うようにして、功徳の体験を語り始める。その体験が、また人びとの共感を呼び、発心を促して、歓喜の実践の波動が広がっていった。強靭な組織、無敵の組織とは、功徳の体験の花が、万朵と咲き誇る組織である。

(『新・人間革命』 第26巻119ページ)